

1. 略歴

1974年3月	群馬県立前橋高等学校卒業
1974年4月	静岡大学人文学部人文学科入学
1978年3月	静岡大学人文学部人文学科卒業
1978年4月	静岡大学人文学部人文学科研究生
1979年3月	静岡大学人文学部人文学科研究生修了
1979年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻博士課程入学
1986年3月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻単位取得退学
1986年4月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生
1987年12月	筑波大学大学院歴史人類学研究科文化人類学専攻研究生修了
1988年1月	国立歴史民俗博物館考古研究部助手
1996年4月	国立歴史民俗博物館考古研究部助教授
2004年4月	駒澤大学文学部歴史学科助教授
2006年12月	博士(文学)取得(筑波大学)
2007年4月	駒澤大学文学部歴史学科教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本考古学

b 研究課題

- (1) 縄文時代から弥生時代への移行問題の研究
- (2) 縄文・弥生時代の葬墓制の研究
- (3) 縄文・弥生時代の通過儀礼の研究

c 主要業績

(1) 著書

- 単著、設楽博己、『Shitara Collection 前橋の縄文後・晩期の遺跡から—設楽コレクション—土からのメッセージ』、設楽コレクション図録製作委員会、2012.3
- 単著、設楽博己『遺跡から調べよう①旧石器・縄文時代』128頁、童心社、2013.7
- 単著、設楽博己『遺跡から調べよう②弥生時代』128頁、童心社、2013.7
- 共著、加藤健吉・仁藤敦史・設楽博己『なぜ、列島に「日本」という国ができたのか こうして“クニ”が生まれた さかのぼり日本史10 飛鳥〜縄文』、NHK出版、2013.8

(2) 論文

- 設楽博己、「コラム 色の考古学」、『日本史色彩事典』、吉川弘文館、414〜416頁、2012.5
- 設楽博己、「保美貝塚における「盤状」集骨墓の検出状況」、『一般社団法人日本考古学協会第78回総会研究発表要旨』、一般社団法人日本考古学協会、124〜125頁、2012.5
- 設楽博己、「辟邪の造形」、『佐久考古通信』、NO110、2〜3頁、2012.6
- 設楽博己「絵画から解く先史の思考」『季刊考古学』第122号、36〜39頁、雄山閣、2013.2
- 設楽博己「東日本の弥生時代社会」『柳田康雄先生古稀記念論文集 弥生時代政治社会構造論』275〜289頁、雄山閣、2013.2
- 設楽博己「弥生時代の人物デザイン」『考古学研究会東京例会シンポジウム(第31回例会)人物デザインの考古学—土偶・顔壺・埴輪—』15〜17頁、考古学研究会東京例会、2013.3
- 設楽博己「東奈良銅鐸の文様をめぐって」『高槻市立今城塚古代歴史館平成25年春季特別展 三島弥生文化の黎明—安満遺跡の探求—』62〜67頁、高槻市立今城塚古代歴史館、2013.3
- 設楽博己「日本列島にはいつから人が住み始めたのか」「縄文人はどのような暮らしをしていたのか」「弥生時代はいつ始まったのか」「豪族統治はどのようにしておこなわれたか」『高等学校日本史B』10〜16・22〜23頁、清水書院、2013.3

- 設楽博己・西本豊弘・田中耕作「新潟県新発田市村尻遺跡出土の穿孔人指骨と骨角器」『新潟県考古学談話会会報』第35号、29～38頁（うち、はじめに・7. 穿孔人指骨について・おわりに29・33～37頁）、新潟県考古学談話会、2013.3
- 設楽博己「日本における国家形成期の僻邪思想と中華思想一方相氏と黥面の絵画から」『一般社団法人日本考古学協会第79回総会研究発表要旨』104～105頁、一般社団法人日本考古学協会、2013.5
- 設楽博己「柳田國男とミネルヴァ論争」『みずほ別冊 弥生研究の群像—七田忠昭・森岡秀人・松本岩雄・深澤芳樹さん還暦記念—』31～37頁、大和弥生文化の会、2013.5
- 設楽博己「群馬県前橋市西新井遺跡の土製耳飾り」『日本先史学考古学論集—市原壽文先生傘壽記念—』101～129頁、六一書房、2013.6
- 設楽博己「縄文時代・弥生時代・古墳時代とはどのような時代だったのか?」『清流』第20巻第9号、62～63頁、清流出版株式会社、2013.9
- 設楽博己「弥生時代 国際社会への参入」『なぜ、列島に「日本」という国ができたのか こうして“クニ”が生まれた さかのぼり日本史10 飛鳥～縄文』、133～185頁、NHK出版、2013.8
- 設楽博己「『三国志』の時代 イレズミからみえてくる邪馬台国」『海でつながる倭と中国—邪馬台国の周辺世界』234～269頁、新泉社、2013.9
- 設楽博己・吉川昌伸「東日本における農耕文化成立の研究—愛知県一宮市馬見塚遺跡 H 地点の発掘調査—」『論集馬見塚』85～105頁（設楽：85～98・104・105頁）、考古学フォーラム、2013.11
- 設楽博己「縄文時代から弥生時代へ」『原始・古代1』岩波講座日本歴史第1巻、63～99頁、岩波書店、2013.11
- 設楽博己「コラム 先史時代の人々は骨をどのように扱ったか—再葬と祖先祭祀—」『O.li.v.e.—骨代謝と生活習慣病の連関—』3～4、248～249頁、株式会社メディカルレビュー社、2013.11
- 設楽博己「農耕文化複合と弥生文化」『国立歴史民俗博物館研究報告』185、449～469頁、2014.2
- 設楽博己・高瀬克範「西関東地方における穀物栽培の開始」『国立歴史民俗博物館研究報告』185、511～530頁、2014.2
- 設楽博己「第一編 原始の大仁」『大仁町史 通史編— 原始・古代 中世・近世』21～87頁、伊豆の国市観光・文化振興課、2014.3
- 設楽博己「日本列島における方相氏の起源をめぐって」『中華文明の考古学』342～353頁、同成社、2014.3
- 設楽博己「科研基盤A「植物・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究」のスタート」『Seeds Contact』第1号、9～10頁、設楽科研事務局、2014.3
- 設楽博己「銅鐸文様の起源」『東京大学考古学研究室研究紀要』28、109～130頁、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室、2014.3

(3) 予稿・会議録

- 国内会議、設楽博己、「縄文人と動物たち」、東京大学文学部公開講座、東京大学本郷キャンパス法文2号館1番大教室、2012.5.12
- 国内会議、設楽博己、「古代におけるイレズミの習俗」、「春季特別展 三国志の時代—2・3世紀の東アジア—」研究講座、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館講堂、2012.5.20
- 国内会議、設楽博己、「保美貝塚における盤状集骨の調査」、一般社団法人日本考古学協会第78回総会研究発表セッション4「考古学と人類学のコラボレーションによる遺跡研究の試み—愛知県保美貝塚を事例として—」、立正大学3号館3階335教室、2012.5.27
- 国内会議、設楽博己、「土偶と耳飾りからわかること」、上野原縄文の森開園10周年記念特別企画展 縄文人の匠の技～土器・土偶・耳飾りからのメッセージ～講演会、縄文の森展示館1階多目的ルーム、2012.11.3
- 国内会議、設楽博己「弥生時代の人物デザイン」『身体としての土器』國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館 國學院大學 AMC 棟常磐松ホール、2013.3.16
- 国内会議、設楽博己「銅鐸文様の起源—東奈良銅鐸をめぐって—」『今城塚古代歴史館春季特別展三島弥生文化の黎明—安満遺跡の探求—特別講演と対談』今城塚古代歴史館映像研修室、2013.3.23
- 国内会議、設楽博己「日本における国家形成期の僻邪思想と中華思想一方相氏と黥面の絵画から」『一般社団法人日本考古学協会第79回総会』駒澤大学記念講堂、2013.5.25
- 国内会議、設楽博己「絵画からみた原始・古代人の精神世界」『市川市立博物館 国際博物館の日記念講演』市川市生涯学習センターグリーンスタジオ、2013.6.2
- 国内会議、設楽博己「丑野毅先生とレプリカ法」『丑野毅先生退官記念講演』東京大学総合研究博物館、2013.6.15

国内会議、設楽博己「最近の弥生文化研究に思うこと」『平成 25 年度栃木県考古学会講演会』栃木県立博物館講堂、2013.8.10

国内会議、設楽博己「東日本への弥生文化の波及」『新潟県立歴史博物館講演会』新潟県立歴史博物館、2013.9.1

国内会議、設楽博己「邪馬台国はどこか？ーイレズミから考える私の仮説ー」『平成 25 年度茨高教研歴史部講演会並びに研究協議会』茨城県立歴史館、2013.11.22

国内会議、設楽博己「馬見塚遺跡 H 地点の発掘調査ー農耕のはじまりを求めてー」『一宮市博物館講演』一宮市妙興寺公民館、2013.11.3

国内会議、設楽博己「弥生文化とはなにか」科学研究費補助金基盤研究 (B) 完新世の気候変動と縄文文化の変化 公開シンポジウム V 『縄紋／弥生の画期ー2.8ka イベントをめぐる考古学現象ー』基調講演、東北芸術工科大学東アジア民族文化アーカイブセンター、2013.12.7

国内会議、設楽博己「弥生都市論と漢文化の影響をめぐる」『明治大学博物館友の会弥生文化研究会講演会』明治大学博物館、2013.12.18

国内会議、設楽博己「縄文人と私たち」東大文学部 集英社 公開講座『ことばを読む ひとを知る』東京大学法文 2 号館、2013.12.21

(4) マスコミ

設楽博己「線刻画は魔除けの役人、方相氏か 北九州・城野遺跡 見えてくる中国の影響」『西日本新聞』9 面、2013.11.5

(5) 教科書

荒野泰典・伊藤純郎・加藤友康・設楽博己・千葉功・村井章介『高等学校日本史 B』305 頁、清水書院、2013.3.26

(6) 共同研究・受託研究

共同研究、山田康弘、国立歴史民俗博物館、「先史時代における社会複雑化・地域多様化の研究」、2012～

共同研究、設楽博己、国立歴史民俗博物館、「柳田國男収集考古資料の研究」、2012～2014

3. 主な社会活動

(1) 学外組織委員・役員

独立行政法人、国立歴史民俗博物館総合展示第 1 室リニューアル委員会、委員会委員、2012.4～

教育機関、神奈川県文化財保護審議会、文化財保護審議会委員、2012.4～

教育機関、静岡県文化財保護審議会委員会、委員会委員、2012.4～

教育機関、佐賀県教育委員会東名遺跡重要性検討会、委員、2012.7～

教育機関、文化庁文化審議会専門委員（文化財分科会）、委員、2013.3～

教育機関、群馬県文化財保護審議会、委員、2012.7～

教育機関、静岡県出土文化財価格評価員、委員、2004.4～

教育機関、静岡市文化財保護審議会、委員、2013.4～

教育機関、佐倉市文化財審議会、委員、2011.4～

教育機関、史跡井野長割遺跡整備検討委員会、委員、2006.2～

教育機関、松戸市史上巻改訂事業原始・古代部会、委員、2011.4～

教育機関、大仁町史編纂委員会、委員、2008.4～

教育機関、佐賀市教育委員会東名遺跡重要性検討会、委員、2012.4～

教育機関、群馬県教育委員会金井東裏遺跡出土甲着装人骨等調査検討委員会、委員、2013.4～

教育機関、群馬県教育委員会群馬県古墳総合調査指導委員会、委員、2013.4～

教育機関、福島県立博物館収集展示委員会、委員、2013.4～

(2) 職歴

国立歴史民俗博物館客員教授 2012.4～2014.3